

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

84

2016. 5. 31

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. “共に働き、共に捧げる” 協同組合の本質を学ぶ
「虹の仲間づくりセミナー」第2回・第3回を開催 … 2
3. 豊かな海を育む漁業の現場を学ぶ
兵庫JCC「協同組合研究・交流会」を開催 4
4. 兵庫JCC2016年度活動計画 5

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一
 - 生協/JA（農協） 6
 - JForest（森林組合）/JF（漁協） 7
6. 協同組合運動に生きる
「虹の仲間づくりセミナーに参加して」
生活協同組合コープこうべシアシア店 住居関連部門 東田 侑子… 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

地方消費者グループ・フォーラム in 和歌山に参加



生協

「学んで、気づいて、つながって～すべての地域で安心して暮らしていくために～」をテーマに、壁新聞交流会やリレートーク、グループ討議などで197人が今後の地域活動の連携を深めました。

米の県オリジナル品種 研究・開発スタート



JA（農協）

JAグループ兵庫と兵庫県は、本県の風土・立地を活かした主食用米のオリジナル品種の共同研究・開発に取り組みます。3月28日に、JA兵庫中央会の石田正会長と県農政環境部の新岡史朗部長が出席し、調印式を行いました。

イカナゴくぎ煮教室開催！



JF（漁協）

ひょうごの春告魚、イカナゴが3月7日(月)に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」中心に、毎年ご好評を頂いているイカナゴくぎ煮教室を連日開催しました。

be 材センター管理事務所棟が完成



JForest（森林組合）

昨年11月に兵庫県森林組合連合会バイオマスエネルギー（be）材供給センターの管理事務所棟が完成しました。チップ用丸太の集材量は、2016年3月末で約2.8万トンに達しており、9月の本格稼働（バイオマス発電所は12月）に向けて、丸太の受け入れを進めています。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5896
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 341-5082

“共に働き、共に捧げる”協同組合の本質を学ぶ 「虹の仲間づくりセミナー」第2回・第3回を開催

兵庫 JCC は、2012 年の国際協同組合年を契機として、次世代を担う職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会のなかで果たすべき役割についてともに考えるためのセミナーを開催しました（第1回は前号に掲載）。

第2回は11月28日（土）、29日（日）に開催されました。

1日目はグリーンピア三木（三木市）で開催された「虹の仲間森づくり」に参加しました。この取組みは、漁業者が「豊かな森が豊かな海をつくります」を合言葉に、植樹活動等に取り組んでいるもので、今回はセミナー参加者を含めた4団体の組合員・役職員約200人が、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」

の指導のもと、約2時間の森の除伐作業を行いました。参加者は、豊かな森に降った雨が豊かな栄養を含んで海に注ぎ込むことにより、多種多様な生物をはぐくみ豊かな海づくりにつながることを学び、森や海への関心を深めました。

2日目は、協同学苑（三木市）で開催された「ひょうごの食文化フェスタ～食から考える一次産業の今とこれから～」にセミナー生が参加。チームごとに県内の生産品をPRし、来場者と交流しました。消費者ニーズを探る中で、協同組合と地元の生産者・企業が連携して生まれる地産地消の「良さ」「らしさ」について改めて考えました。



ひょうごの食文化フェスタ



研修の様子



虹の仲間森づくり

第3回は1月29日（金）、協同学苑で開催されました。

前半は2人1組になったの「傾聴」。お互いにインタビューを行い、引き出したエピソードを「他己紹介」で全体に披露しました。それを受けて後半では、「虹の仲間」とともに取り組む6つのプロジェクトチームが立ち上がりました（内訳は下記参照）。

全体を通じて、セミナー参加者からは「自分の組織を外から見ることができ、やっぱり良いところだ、と見直した」「ようやく“協同組合で働いている”という意識が湧いてきた」などの感想が寄せられました。「協同組合のミッションと自分の仕事がつながる」をテーマに協同組合の理念を学び、互いの協同組合を知り、学び合い、つながる、虹の仲間づくりセミナーは、未来に向けての一步を踏み出しました。



インタビュー



他己紹介

“虹の仲間”とともに取り組む6つのプロジェクト

- ① 購買生協と大学生協のコラボによる“食育”
- ② 協同組合の方向性を“楽しく知ろう”
- ③ 各組合の素材を持ち寄る“協同組合版収穫祭”
- ④ 都市～農業・漁村～交流・ツーリズム
- ⑤ 在宅の高齢者、障がい者の方々への協同組合による“食事・配食”
- ⑥ 次世代への“バイオマスエネルギー研究”



6つのプロジェクトに分かれて協議

豊かな海を育む漁業の現場を学ぶ 兵庫JCC「協同組合研究・交流会」を開催

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫 JCC)は、2月12日(金)、姫路市で2015年度兵庫 JCC 協同組合研究・交流会を開催しました。

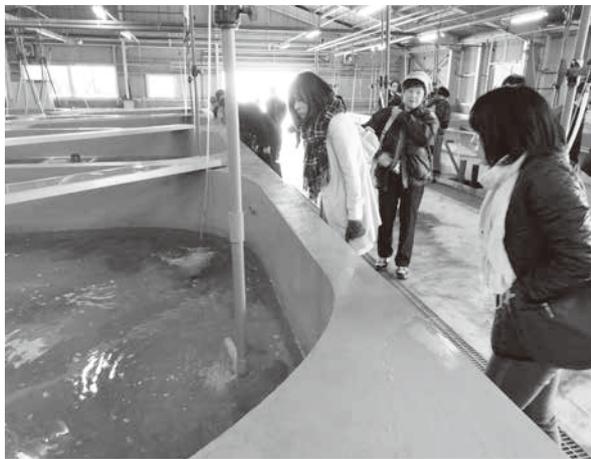
この交流会は、生産者・消費者が交流することで、互いを理解し、さらなる協同・連帯を促進することを目的として開催しているもので、今回は生協・JA・JF・森林組合の組合員・役職員など37人が参加しました。

参加者はまず、海上タクシーに乗って、播磨灘に浮かぶ魚の島・坊勢島(姫路市家島町)

に渡りました。JF 坊勢の岡田武夫組合長から、島の暮らしや基幹産業である漁業についてお話を伺ったあと、中間育成施設を見学。「獲る漁業から育てる漁業へ」の現場を知ることが出来ました。

その後、再び海上タクシーで姫路港へ。昼食はJF 坊勢の直売所「姫路とれとれ市場」で、特産のカキをはじめとした魚介類のバーベキューを堪能。隣接する兵庫県漁連の水産加工センターでは、タコ加工品やイカナゴ加工品の製造工程を見学し、地元の素材を取り入れ季節感を大切にしながら加工品がつけられていることを知りました。

参加者からは「厳しい環境のなかでも工夫し、島の活性化に取り組んでいることに感心しました」「もっと兵庫の魚を食べようと思いました」等の感想が寄せられました。



中間育成施設



坊勢の漁港を見学



直売所「姫路とれとれ市場」で海鮮 BBQ

兵庫JCC2016年度活動計画

目的

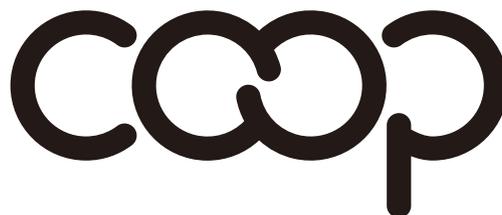
協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	内容	規模	実施日
第94回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ「協同の力で未来を拓く」 「協同組合がよりよい社会を築きます」 講演： 「協同（人のつながり）の力で地域の課題を解決しよう！～兵庫の協同組合に期待しています～」 講師：コミュニティーデザイナー 山崎 亮 氏	約350人	7月1日
「虹の仲間づくりカレッジ」 の開催	2013年から取組んだ「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を発展させたものとして、「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに、生産から消費をつなぐ協同組合間協同の可能性についてセミナーを開催し、共に考える。	約25人	①8/23～24 ②9/27～28 ③2/7～8 (予定)
兵庫県版 「森は海の恋人」運動	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる森づくり活動に兵庫 JCC の参加を呼びかける。	約50人	(未定)
協同組合 研究・交流会	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深めるため、農協、漁協、森林組合、生協の各協同組合が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後の更なる協同・連携を促進する。	未定	秋予定
PHD 運動への協力	兵庫 JCC として、(公財) PHD 協会による PHD 運動への協力を行う。 ①各協同組合で PHD 運動を紹介 ② PHD 会員としての協力 ③研修生の受け入れ		

世界的な協同組合運動のシンボルマークが変わりました

ICA（国際協同組合同盟）は平成25年11月に、世界的な協同組合運動の新しいシンボルマークとして、従来の虹のマークに代わり、新たにコープマークを作成しました。

このマークは、使用する協同組合が世界的な協同組合運動の一員であることを示し、他の事業者との違いについて認知度を高めていくことを目的としています。



今 協同組合では 一各協同組合からの報告

生協から

「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」感謝状を拝受

瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生しようと、141万人の署名活動に取り組んだことが評価され、兵庫県生活協同組合連合会は会員生協の生活協同組合コープこうべ、生活クラブ生活協同組合都市生活など、23団体とともに、瀬戸内海沿岸の35府県市でつくる「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」主催「瀬戸内海環境保全特別措置法改正記念シンポジウム」にて感謝状を拝受しました。昨年10月、豊かで美しい瀬戸内海をめざす「瀬戸内海環境保全特別措置法」の改正法が成立したことを受け、署名活動などの法改正に尽力した団体などに感謝状が贈呈されました。豊かで多様な生態系と自然環境を保全することで、私たちに多くの恵みを与えてくれる里海。森・川・海などの貴重な財産を次代へ継承するため、今後も環境活動を継続して参ります。



表彰

世代を超えてコラボする消費者市民社会 ～「消費者・事業者・行政によるワークショップ」を開催～



大学ワークショップ

2月27日(土)、兵庫県民会館において、兵庫県・ひょうご消費生活三者会議・大学生協阪神事業連合の主催で、消費者・事業者・行政による「世代を超えてコラボする消費者市民社会～消費者・事業者・行政によるワークショップ～」を開催。大学生39人、高校生12人を含む115人がつどいました。

消費者啓発活動を顕著に実践したと認められる大学生に交付される「くらしのヤングクリエイター活動認定証」は、のべ100人を越えました。また、消費者・事業者・行政のそれぞれの立場からの活動報告が行われ、ワークショップでは参加者がそれぞれの役割を考えるためグループに分かれて互いの意見を尊重し合いながら交流しました。今後も、「くらしのヤングクリエイター」が中心となり、このワークショップで生まれたアイデアを1つでも実現し、兵庫県の消費者行政の理念でもある「消費者、事業者、行政の信頼と協働により、安全で安心な暮らしを実現する」消費者市民社会をめざしていきます。

JA(農協)から

JA チャンネル兵庫の運用を開始

JA全農兵庫は県下JA・連合会と協力し、神戸市内のJR元町駅前で「JAチャンネル兵庫」の運用を始めました。

JAチャンネル兵庫は、JR元町駅東口高架通2階に設置したJAグループ兵庫専用の大型LEDビジョン(幅5.5m、高さ2.8mの大型ディスプレイ)で、県産農畜産物の魅力やJAグループ兵庫の取り組みを紹介する動画を放映し、県内農業とそれを支えるJAへの理解を広く消費者に求める取り組みです。下部には電光掲示板を設け、イベント等の告知もできるようになっています。

4月21日(木)は駅前広場で点灯式を開催。当日は曾輪佳彦県本部長のあいさつに続いて、関係者一同によるカウントダウンが行われました。かけ声にあわせて画面に「START!」の文字が映し出されると、周囲からは大きな拍手が起こりました。

セレモニー後は駅前広場で、新鮮な野菜や米、菓子など県内JAの特産農産物・加工品を配り、道行く人々にPRしました。

その後、4月末までは試験運用を実施し、5月から本格的な運用が始まりました。現在放映しているのは県内JA・連合会の紹介動画が主ですが、今後は個々の農畜産物をテーマにした動画も順次制作、放映する予定です。



点灯式では特産農産物・加工品を配り道行く人々にPR

JForest(森林組合)から

北但西部森林組合が優良森林組合表彰を受賞



木質バイオマスセンター

昨年10月28日に日比谷公会堂(東京)において「第28回全国森林組合大会」が開催され、兵庫県下の森林組合及び森林組合連合会の役職員が参加しました。大会当日の表彰式では、優良森林組合表彰(林野庁長官表彰)で北但西部森林組合(美方郡香美町)が表彰されました。

北但西部森林組合では、今後需要が見込まれる木質バイオマス燃料チップ生産に対応するため、地元香美町協力のもと老朽化していたチップ工場を、木質バイオマスセンターとして平成26年度に新築整備しています。更に、プロセッサを始めとした高性能林業機械等も購入し、新しい需要に対応できる体制を構築しており、整備を行った森林から搬出された木材については建築・合板用材、製紙用・燃料用チップ、燃料用・畜産用パークと全量余すところなく利用しています。



搬出間伐の状況

また、森林組合が取りまとめる形で集落内の森林所有者が協力して組織をつくり、共同で森林の境界の明確化、森林の整備、木材の販売などを行う集落林業を推進しており、効率的な森林整備を行える環境づくりにも取り組んでいます。

JF(漁協)から

～満員御礼！ SEAT - CLUB のイカナゴくぎ煮教室～



獲れたての新鮮なイカナゴ(新仔)

JF兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB(シートクラブ)」では、3月8日(火)から3月16日(水)まで、イカナゴのくぎ煮教室を開催しました。

このイカナゴのくぎ煮教室は毎年ご好評を頂いており、教室の予定発表と同時に予約の電話が鳴り続ける超人気教室で、今年も予約開始後すぐに全日程が満席となり、多くのキャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりです。

ご参加いただいた方からは、「こんなに簡単に、失敗しない炊き方を知る事が出来て良かった。今シーズン中にまた炊きます!」などという声を多数いただきました。

また、県内の小中学校で、家庭科の授業の一環として兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会とSEAT - CLUBが希望された学校に講師を派遣してイカナゴくぎ煮教室を開催しました。

この他にも今年で3回目となるイカナゴのくぎ煮コンテストを日本郵便株式会社近畿支社との共催により開催しました。

さらに3月26日(土)に今年が初めてとなる、イカナゴ料理コンテストを開催しました。

このコンテストは、くぎ煮以外のイカナゴ料理のレシピを競い合うコンテストで、若い消費者の方にもっとイカナゴの良さを知ってもらいたいとの思いから、漁業者からの発案で開催することとなりました。

一般の消費者の方からレシピを募集し、書類選考を勝ち抜いた6人が兵庫県水産会館の調理実習室にて行われる本選で、実際に調理をし、そのレシピを競い合うというもので、本選に出場したレシピは来シーズンのイカナゴ謝恩実行委員会の発行するイカナゴ料理レシピに掲載されます。

当日は終始、和やかな雰囲気で行われ、出場者の皆様の自慢のレシピはどれも、審査員が審査に悩むほど甲乙つけがたい美味しさで、大盛況のうちに終了となりました。

SEAT-CLUBはこのような活動を通じて沢山の方に兵庫の魚のおいしさ・楽しさを知っていただき、伝統的な魚食文化が見直され継承されていくよう、これからも色々な形で、さかなの情報を発信してまいります。



イカナゴ料理コンテストで腕を奮う出場者



JF 坊勢とれとれ市場でのくぎ煮教室

協同組合運動 に生きる

「虹の仲間づくりセミナー」 に参加して

生活協同組合コープこうべ シア店 住居関連部門 **東田 侑子**



兵庫県下の協同組合の職員約 40 名が集まって開催された「虹の仲間づくりセミナー」（全3回の連続講座）では、座学での講義やグループワーク、フィールドワークなど、様々なカリキュラムを通じて、各団体の職員同士が交流を深めながら、協同組合が社会の中で果たす役割について学びました。

セミナーの中で最も印象に残っているのは、協同学苑の野尻学苑長が講演の中でおっしゃっていた「協同組合は『要求型民主主義』ではなく『参加型民主主義』を目指すべきである」という言葉でした。世の中の生活が便利になり、消費者の「要求」だけが追求されていくことで、消費者から、購入する商品の作り手や生産を支える環境が見えづらくなってきています。消費者が「自分自身のくらしの選択が生産やそれを守る人・環境へと繋がっていること」を意識できるよう、事業や活動を進めていくことこそが、協同組合のミッションなのだ、野尻学苑長の言葉から痛感させられました。そして、このミッションを達成すべく自分が協同組合に所属していることに誇りを感じられるようになりました。競合他社の価格訴求品や新商品等が氾濫する世の中で、生協の商品やサービスの良さを訴えていくことは、決して簡単なことではありませんが、野尻学苑長の講演を通じて、どんな時も、自分自身が協同組合の一員ということを胸に抱いて日々の業務に向き合わねばならないと思えるようになりました。

また、各団体の枠組みを超えた「仲間」との出会いも、私にとって大きな宝物となりました。年代も普段の業務内容もバラバラであるセミナー参加者とグループワークを共に進めていくうちに、グループワークやセミナーの内容だけでなく、自分たちが内に秘めている思いや考えを熱く語り合える「仲間」になっていきました。

1回目のセミナーに参加した当時、私はコープこうべでの自分の担当業務を思うように進められず悩んでい

ましたが、セミナー後に開催された懇親会の場で、グループワークを通じて知り合った班員の1人から「俺たち、協同組合の仲間じゃないか。1人で悩むなよ」と熱く励まされました。出会ったばかりで、一緒に仕事をしたわけでもない人から「協同組合」の仲間であるという理由だけで、叱咤激励してもらえたことに感激し、そんな熱い思いを持った仲間と出会え、繋がれたことを幸せに思いました。それとともに、自分が今までいかに狭い視野で仕事をし、悩んでいたのか、ということも痛感させられました。自分の担当業務や部署だけにとらわれてしまうのではなく、生協全体、協同組合全体、そして社会全体を俯瞰した視点で物事を見られるようになりたい、と思うようになりました。そして、この仲間達との繋がりをセミナー限りにするのではなく、セミナーが終わってからでも大事にし続け、更に強固なものにしていきたいです。

現在、私はコープこうべシア店の住居関連部門で働いています。過去にも店舗での勤務経験はありましたが、当時は「協同組合の一員として働いている」という意識はほとんどなく、漫然と、深く考えず業務に従事していたように思います。セミナーを通じて協同組合の存在意義を学んだ今は、コープこうべの商品を通じて、組合員様に満足していただける接客や生活提案をしていくことを、日々、心掛けながら業務に従事しています。

最後になりましたが、私を生協人として、協同組合の一員として成長させてくれた「虹の仲間づくりセミナー」が今後、第2回、第3回と続くことで、協同組合間における組織や職員同士の連携が強固になり、今後の事業や活動が更に発展することを心より願っております。また、私自身も「虹の仲間づくりセミナー1期生」として、日々の業務や生活の中で、自分の周囲に協同組合の理念や活動を伝えられるよう、実践し続けていきたいです。